

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年9月20日】第136号



三連休が2回

9月17日(土)から19日(祝)は三連休、またすぐに9月23日(祝)から26日(日)も三連休となります。子どもたちには敬老の日や秋分の日の意味を理解し、考える機会になるよう、ご家庭でもご指導をお願いします。とくに、公共交通機関を利用しての登下校、あるいは、体験学習で様々な方々にお目にかかる機会の多い本校の子どもたちには、お年寄りや大人を大切にする気持ちをしっかり持ってほしいと思っています。さらに、助けを必要としている人々に思いを寄せるやさしい気持ち、保護者や先生の言葉を素直に受け入れようとする気持ち、誰に対してでも礼儀正しくふるまおうとする気持ちを持ってほしいものです。その上で、成長に従って、しっかりと社会性を身に付け、同時に、それぞれの意見を持ち、個性を發揮できるようになることを願っています。

さて、保護者に大切にされているという実感をもつことで、子どもたちの心は安定します。23日(金)からも、お子様と楽しく向き合っていただく三連休となりますように。

普通救命講習

少し前のことになりますが8月29日(月)、農大稲花小の教職員は、世田谷消防署による普通救命講習を受講しました。1時間の事前学習を各自で行った後、本校体育館で2時間の実技講習で、胸骨圧迫(心臓マッサージ)やAEDの利用法を学びました。教職員は2人で一組となって指導を受け、東京消防庁より救命技能認定証を頂きました。

また、夏休み中の出勤日を利用して、多くの教職員がアナフィラキシー症状の進行を一時的に緩和するための補助治療剤である「エピペン[®]注射液」の保存場所や非常食倉庫などの確認もしました。

大切な児童を預かる小学校です。常に安全に気を付けるとともに、誰もがいざというときに適切に動ける教職員となれるよう、これからも情報共有や研修を重ねてまいります。

一列になって歩く

9月2日(金)、5日(月)そして12日(月)は学校法人東京農業大学の休日でした。そのためこの3日間、世田谷通り方面から通学する子どもたちは、東京農業大学正門から経堂門を通るのではなく、キャンパスの外側から小学校に向かうことになりました。

大学正門付近、あるいは、世田谷通りの信号付近で、一列に並んで小学校正門に向かうよう、本校教員が子どもたちを指導しました。いつもは楽しく2人、3人と並んでキャンパスの中を歩く子どもたちです。最初はちょっと戸惑ったようですが、指導に従い、1列に並んで歩いて行きました。10人程度の列を作る際、可能であれば、先頭と最後尾に最上級生である4年生を配置するようにしましたが、先頭の4年生が振り返りながら、また最後尾の4年生は列からはみ出す下級生を注意しながら歩いて行く様子に、4年生の成長を感じました。残念ながら、通学途中の子どもたち同士のトラブルはまだ少なくありません。下級生だけでなく上級生でも未熟な心の子どもはいるのです。しかし、様々な経験を通して、どの子どももそれぞれに成長していく様子は、日々のいろいろ

な場面で見ることができます。ご家庭でも、学習だけでなく、お子様の心もちやふるまいにおける成長を認め、支えていただければと思います。

水田の多面的機能を学ぶ

9月13日(火)、3年生の稲花タイムでは、「田んぼのふしぎ、田んぼのやくわり」という授業を行いました。子どもたちは一人1本ずつ稲穂を受け取り、何粒の粳がついているかを数えます。次に粒の数を合計して、お茶碗約一杯分のお米に足りるかどうかを考えました。さらに、これだけのお米を作るために必要な苗の数、1年間に食べるお米を作るために必要な田んぼの面積を習い、教室の広さと比べました。このほか、八郎潟干拓地、田んぼアート、さらに世界の棚田の様子を画像で見たり、水田の様々な機能について理解したりする学習をしました。

粳の数の合計をひっ算でするときには、「稲花タイムなのに算数もやるのですか？」という声もありましたが、足し算も素早くでき、また、面積のイメージもきちんと理解していることもわかり、安心しました。暗算のとても速い子もいてびっくりしましたし、八郎潟についてよく知っている子もいて感心もしました。キロ当たりのお米の値段については、「安い！」という子どもたちの声が多かったのですが、新米が出回るころなどに、お店でお米の品種や値段を確かめてほしいと思っています。

農大稲花小の子どもたちには、学校の名前に恥じないよう、イネ、米、ご飯について日本で一番よく知っている子どもになってほしいものです。

田奈では稲刈り

9月16日(金)、横浜市青葉区にある「田奈の田んぼ」では、稲刈りが行われました。4月に1年生が、東京農業大学の先生方や大学生の手をお借りして田植えをし、東京農業大学第一高等学校・中学校の生徒たちが列を整え、その後は稲刈りの日まで田んぼのオーナーである野路様に手入れをしていただいた田んぼです。この日も、午前中は2年生が、午後は1年生が稲刈りをしましたが、東京農業大学農芸化学科の加藤拓准教授、犬伏和之教授には子どもたちの指導を、大学院生の皆さんに応援していただきました。

2年生はのこぎり鎌を使って、稲を刈り取り、これをおだ干ししていきます。膝をうっかり鎌で切ってしまうよう、森林総合科学科の大林宏也教授が作ってくださった木製の補助具も使いました加藤先生のご指導もあり、どの子どもも上手に鎌で刈りとり、次々と干していきました。このお米はあとから精米され、給食などにも提供されます。また、犬伏先生には、紙芝居を利用したお米クイズをしていただきました。クイズが大好きな子どもたちです。どの問題にも真剣に、かつ楽しく答え、さらに、各学級には「土」のシールをいただきました。



一方、1年生ははさみで穂を刈り取りました。これを新聞紙で作った袋に入れ、それぞれの家庭に持ち帰りました。農大稲花小の「みのりマーク」は稲穂に由来しています。自分の手で刈り取った稲穂には何粒の粳がついているのでしょうか。じっくりと見て、大切にしてほしいと思っています。

なおこの日、3年生は社会科見学で区内桜丘4丁目の中杉キッチンガーデンを訪問しました。昨年に続いての見学ですが、今年も温かく迎えていただき感謝しています。